

日本高等教育学会 第24回大会
大会プログラム

2021年5月30日(日)

オンライン開催 (Zoom)



知のリーダーシップ

— 大学教授の役割を再生する

ブルース・マクファアレン 著
齋藤芳子・近田政博 訳



大学教授がどのようなリーダーシップを提供できるかについて、様々な「リーダーシップ」の形を提起しながら世界的に通用するアイデアを複数紹介する。リーダーとして教授の才能を再び活用する方法について、現代に新たな考え方を示す。

A5判並製・222頁 本体2200円

◎ 文系修士課程修了者の現在と展望を探る 文系大学院をめぐる トリレンマ

吉田文 編著



文系修士課程修了者は、なぜ労働市場で評価されにくいのか。その問題は「大学院／教員」「労働市場／雇員」「大学院生／修了者」の三者間に存在する不調和にあると仮定し、アンケートやインタビュー調査からその構造を解き明かしていく。国内の動向だけでなく、米国や中国での近年の動向もあわせて紹介する。

A5判並製・236頁 本体2800円

シリーズ 大学の教授法 (全6巻)

1 授業設計 中島英博 編著

2 講義法 佐藤浩章 編著

3 アクティブラーニング 中井俊樹 編著

4 学習評価 中島英博 編著

5 研究指導 近田政博 編著

6 授業改善 佐藤浩章・栗田佳代子 編著

A5判並製・各200〜232頁 本体各2400円

大学のSD講座

1 大学の組織と運営 中井俊樹 編著

2 大学教育と学生支援 中井俊樹 編著

3 大学業務の実践方法 中井俊樹・宮林常崇 編著

4 大学職員の能力開発 竹中喜一・中井俊樹 編著

A5判並製・各196〜208頁 本体各2200円

日本高等教育学会編

高等教育研究

23 大学評価 その後の20年

- 1 高等教育研究の地平*
- 2 ユニバーサル化への道*
- 3 日本の大学評価*
- 4 大学・知識・市場*
- 5 大学の組織・経営再考*
- 6 高等教育 改革の10年
- 7 プロフェッショナル化と大学
- 8 学士学位プログラム
- 9 連携する大学*
- 10 高等教育研究の10年*
- 11 大学生論*
- 12 変容する大学像
- 13 スタッフ・デイベロップメント*
- 14 高大接続の現在*
- 15 高等教育財政
- 16 高等教育研究の制度化と課題
- 17 大学教育のマネジメントと革新*
- 18 高等教育改革 その後の10年
- 19 高等教育研究におけるIR
- 20 高等教育研究のニューフロンティア
- 21 学生多様化の現在
- 22 高等教育と金融市場

*品切 オンデマンド対応本

最新刊 教学マネジメントと内部質保証の実質化

大学基準協会監修 永田恭介・山崎光悦編著 A5・上製・三四四頁・三三二〇円

最新刊 教職協働による大学改革の軌跡

村上雅人著 A5・上製・二五六頁・二六四〇円

最新刊 学生参加による高等教育の質保証

山田勉著 A5・上製・一四四頁・二六四〇円

日本の大学経営

— 自律的・協働的改革をめざして —
両角亜希子著 A5・上製・四二〇頁・四二九〇円

学長リーダーシップの条件

両角亜希子編著 A5・並製・二一六頁・二八六〇円

大学経営・政策入門

東京大学 大学経営・政策コース編 A5・並製・二七二頁・二六四〇円

最新刊 科学技術社会と大学の倫理

— 高等教育研究論集第4巻 —
羽田貴史著 A5・上製・二九六頁・三三二〇円

大学教授職の国際比較

— 世界・アジア・日本 —
有本章編著 A5・上製・三三六頁・四六二〇円

2040年 大学教育の展望

山田礼子著 A5・上製・二八八頁・三八五〇円

2040年 大学よ甦れ

— カギは自律的改革と創造的連携にある —
田中弘充・佐藤博明・田原博人著 A5・上製・二四〇頁・二六四〇円

Eビデンスの時代のFD

— 現在から未来への架橋 —
A.L.ピーチ他著 林透・深野政之他訳 A5・並製・二四八頁・三〇八〇円

女性の大学進学拡大と機会格差

日下田岳史著 A5・上製・三〇四頁・三九六〇円

世界のテスト・ガバナンス

— 日本の学力テストの行く末を探る —
佐藤仁・北野秋男編著 A5・上製・二六四頁・三三二〇円

湾岸アラブ諸国における外国大学分校の質保証

中島悠介著 A5・上製・二七二頁・四一八〇円

米国における協働的な学習の理論的・実践的系譜

福嶋祐貴著 A5・上製・三六〇頁・三九六〇円

現代アメリカ貧困地域の市民性教育改革

— 教室・学校・地域の連関の創造 —
古田雄一著 A5・上製・三二二頁・四六二〇円

清上慎一著 学びと成長の講話シリーズ(各四六・並製、続刊)

③ 社会に生きる個性

自己と他者・拡張パーソナリティ・エージェンシー — 二〇八頁・一六五〇円

② 学習とパーソナリティ

— あの子はおとなしいけど成績はいいんですよね! — をどう見るか — 二四八頁・一七六〇円

① アクティブラーニング型授業の基本形と生徒の身体性

— 学校から仕事への — 一八四頁・一〇〇〇円

若者のアイデンティティ形成

— ジェームズ・E・コテ&チャールズ・レビン著 —
河井亨・清上慎一訳 A5・上製・二九六頁・三三二〇円

最新刊 「書く」ことによる学生の自己形成

— 文章表現「パーソナルライティング」の実践を通じて — A5・上製・一八四頁・二六四〇円 谷美奈著

越境ブックレットシリーズ(各A5版・並製、続刊)

④ 食と農の知識論

— 種子から食卓を繋ぐ環世界をめぐる — 二二八頁・一一〇〇円 西川芳昭著

③ 他人事非自分事

— 教育と社会の根本課題を読み解く — 二二八頁・一一〇〇円 菊地栄治著

② 女性のエンパワメントと教育の未来

— 知識をジェンダーで問い直す — 一〇四頁・一一〇〇円 天童睦子著

① 知識論

— 情報クラウド時代の「知る」という営み — 二二〇頁・一一〇〇円 山田肖子著

① 教育の理念を象る

— 教育の知識論序説 — 一六〇頁・一三二〇円 田中智志著

最新刊 アメリカ教育例外主義の終焉

— ジェフリー・ヘニグ著 青木栄一監訳 — A5・上製・三三〇頁・三九六〇円

台湾における高等教育多様化の論理

— 廖于晴著 — A5・上製・二四〇頁・三三二〇円

国際教育開発への挑戦

— 萩原崇世・橋本憲幸・川口純編著 — A5・上製・二五六頁・三〇八〇円

高等教育学会 会員限定
高等教育学会の会員様限定! 本広告内書籍や関連書の購入をご希望の方は、下記のQRコードまたはメール(toshindo_onlineorder1988@gmail.com)にて小社へご連絡いただきますと、**20%OFF**の特価注文書(年度内有効)をお送り致します。是非ご利用ください!



ごあいさつ

日本高等教育学会第24回大会は、コロナ禍のため、5月30日にオンラインで開催することといたします。例年は大会校のキャンパスにおいて、開催するのですが、今回は学会事務局を中心に大会実行委員会を組織し、オンラインのみの開催となります。また、例年の2日間ではなく、1日間の開催となり、総会やシンポジウムも開催されません。

オンラインでの開催では、例年の大会時のような会員相互の交流などが大幅に制限されます。大会は部会や課題研究などの発表や討論から最新の研究動向や研究成果を得るだけでなく、会員相互のインフォーマルな情報や意見交換が大きな意義を持っています。まことに残念ですが、こうした機会を現在のオンライン開催では提供できません。

しかし、オンラインの場合には、大会への参加とりわけ遠方からの参加が容易になるという利点もあります。新しい形態での大会になりますが、多くの会員の皆様にご参集いただくことを期待しております。実行委員会では、この新しい形態の大会を会員の協力を得て無事に開催したいと念願しておりますが、初めてのオンライン大会となり、参加会員にはいろいろ行き届かないこともあるかと思えます。ただ、既に3月5日に、研究者交流集会をオンラインで開催し、つつがなく盛会のうちに終わることができ、参加会員から、会員相互の交流の場をいかに確保するかなど、新しい学会のあり方についても、貴重なご意見をいただきました。さらに、今回の大会についても、会員の皆様のご協力とご意見を賜れば幸いです。なお、総会につきましても、昨年度と同様に、別途オンラインでの実施となる予定です。合わせて、ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

日本高等教育学会 第24回大会 大会実行委員会
委員長 小林 雅之

大会参加のご案内

ウェブサイト : 最新情報は「<https://www.jaherconf.org/>」で提供しております。

大会参加申込 : 申込期間は、**2021年3月2日（火）～2021年5月19日（水）18:00** までです。大会参加申込は、日本高等教育学会ウェブサイト「大会参加申込システム」から行ってください。大会参加に必要なWEBアドレスは、参加申込等の後に別途お知らせ致します。

大会参加費 : 大会参加費は、**1,500円**となります。
大会参加費の支払いは原則、参加申込システム上でのクレジット決済のみとなります。決済完了後の返金はいたしかねますので予めご了承ください。詳細は参加申込システムをご参照ください。なお、振込用紙を用いた大会参加費の支払いを希望される方は、大会実行委員会までメールでお知らせください。振込先等の情報を別途お知らせします。

臨時会員 : 第24回大会は、オンライン開催のため、例年受け付けている臨時会員の参加受付はありません。

大会参加者向けの説明会 : **5月22日（土）13:00～（1時間程度）**
説明は前半30分程度で行い、質問等は後半30分程度を予定しています。
詳細は、後日ご案内いたします。

緊急連絡先 : 大会当日緊急連絡先（電話番号）は、後日ご案内致します。

第24回大会実行委員会 問い合わせ : メールアドレス
(jaherconf@gmail.com)

※ 本プログラムは、今後、多少の修正の可能性がありますのでご了承ください。

複数人で実施される自由研究発表の発表者の掲載順を一部修正しております。（5月10日付）

発表者へのお願い

●発表人数、発表時間、質疑応答時間

発表人数	発表時間	質疑応答時間
1人	15分	5分
2人	30分	10分
3人以上	40分	10分

※スムーズな進行にご協力をお願い致します。

●参加方法

詳細は、後述「第24回大会（オンライン開催）への参加方法」をご確認ください。

司会者へのお願い

●時間管理

各発表、総括討論の予定時間を超過しないように時間管理をお願い致します。

●総括討論

各部会のおわりに総括討論の時間を設けております。時間はそれぞれの部会によって異なります。この時間の活用方法は司会者に一任しておりますので、臨機応変に対応していただきますようよろしくお願い致します。

●参加方法

詳細は、後述「第24回大会（オンライン開催）への参加方法」をご確認ください。

第24回大会（オンライン開催）への参加方法

第24回大会は、Zoomを用いてオンラインにて開催致します。円滑に進行を行うために、以下の点にご協力をお願い致します。

<全参加者へのお願い>

- 発表会場に入室するためのURLは、当日大会HP (<https://www.jaherconf.org/>) または事前に送付するPDFファイルに掲載いたします。
- 発表会場に入室する際は、マイク・カメラをオフに設定してください。
- 表示される氏名は「氏名（所属）」に設定してください（例：大学太郎（立山大学））。
- 質問がある場合は、全員に対して「チャット」欄で「質問があります」等、質問がある旨を送信してください。司会者から指名を受けたら、マイク・カメラをオンにして発言し、発言終了後はマイク・カメラをオフに設定してください。
- 録画・録音は禁止です。ご協力をお願いいたします。
- Zoomの操作方法については、各種マニュアル等をご参照ください。
例：<https://redbuller.hatenablog.com/entry/2020/03/28/022605>

<発表者へのお願い>

- 発表をされる部会では、カメラは常にオンに設定してください。マイクは司会から指名されるまでオフに設定してください。
- 発表開始10分前までに入室し、司会者・進行補助者から「共同ホスト」の指定を受けてください。
- 発表時にスライド等を使用される際は、発表者が「画面共有」を行ってください。
- 要旨とは別に資料等を配布する際は、各発表時間の冒頭に「チャット」欄から資料を送信してください。
- 学会でのオンライン発表は、著作権法上の「自動公衆送信」とみなされます。各自著作権への配慮をお願いいたします。
- 発表者・司会者説明会（希望者のみ）を、5月22日（土）13:00より1時間程度実施する予定です。詳細は別途メールにてご案内いたします。

<司会者へのお願い>

- 司会をされる部会では、カメラは常にオンに設定してください。マイクは発言時以外オフに設定してください。
- 発表開始10分前までに入室し、発表者の出席状況の確認及び「共同ホスト」へ指定してください。
- 発表および質疑応答時間は、予定時間を超過しないよう管理をお願いいたします。
- 発表者が遅刻・不在の場合であっても、予定時間は変更せずタイムスケジュールの通り進行してください。発表が行われていない間は、カメラ・マイクはオフにして各部会で待機をお願いいたします。
- 発表時間の管理や進行補助のために、各部会へ「進行補助者」を配置いたします。
- 総括討議の運営は司会者に一任しております。状況に応じて、臨機応変に対応をお願いいたします。
- 司会者・司会者説明会（希望者のみ）を、5月22日（土）13:00より1時間程度実施する予定です。詳細は別途メールにてご案内いたします。
- ※ ご不明な点などは、大会メールアドレス (jaherconf@gmail.com) までお問合せください。

大会プログラム 概要

◆ 8:30～Zoomでアクセス可能

9:00～11:00	
自由研究発表 I	
I-1 部会	学長リーダーシップ
I-2 部会	質保証・評価・学位
I-3 部会	大学の公共性と開放
I-4 部会	学術・研究活動とキャリア
I-5 部会	大学の入口・出口と人材養成

11:15～13:15	
自由研究発表 II	
II-1 部会	コロナ禍と学生・教育現場
II-2 部会	大学と関係団体
II-3 部会	法人と財務
II-4 部会	研究者と学術知
II-5 部会	組織編成と戦略

14:15～16:15	
自由研究発表 III	
III-1 部会	大学自治と理念
III-2 部会	コロナ禍と大学教育
III-3 部会	卒業生と学習成果
III-4 部会	大学生
III-5 部会	国立大学法人の戦略
III-6 部会	留学生とグローバル化

16:30～18:30	
課題研究 I, II	
課題研究 I	URA政策を通じてみる大学の研究活動
課題研究 II	大学と国民国家 歴史・国際比較を通じた考察

※なお、総会につきましては、2020年と同様に第24回大会とは別にオンラインで行います。

I-1部会

学長リーダーシップ

司会：両角亜希子（東京大学） 藤村正司（広島大学）

- 9:00~9:20 私立大学における教員組織と教員組織の二重構造
○松丸 英治（昭和女子大学）
- 9:20~9:40 国立大学の学長補佐体制に関する基礎的研究
—学長補佐に着目して—
○鈴木 拓人（東京大学大学院）
- 9:40~10:30 女性学長をめぐる日本の構造的特質
—大学リーダーシップ育成のあり方を問う—
○河野 銀子（山形大学） ○米澤 彰純（東北大学）
○佐々木 啓子（電気通信大学） ○黄 梅英（尚絅学院大学）
○高橋 裕子（津田塾大学）
- 10:30~11:00 総括討論
-

I-2部会

質保証・評価・学位

司会：濱中義隆（国立教育政策研究所） 前田早苗（千葉大学）

- 9:00~9:20 中国における「双一流」プロジェクトによる大学間競争システムの構築
—学科別評価から—
○李 月婷（筑波大学大学院）
- 9:20~9:40 国際基準に沿った医学教育分野別評価
—アメリカの制度変更が日本の医学部にもたらした影響—
○田中 正弘（筑波大学）
- 9:40~10:00 英国における大学教育の「質保障」システムの帰結
—各アクターの視点から—
○本田 由紀（東京大学）
- 10:00~10:20 日本型資格枠組み（JQF）の構築に向けた課題と可能性について
○野田 文香（大学改革支援・学位授与機構）
- 10:20~10:40 学術と職業のアプローチをつなぐ学位・資格の分野分類再考
—第三段階教育の学修成果に焦点をあてて—
○吉本 圭一（滋慶医療科学大学院大学）
- 10:40~11:00 総括討論

大学の公共性と開放

司会：羽田貴史（東北大学） 白川優治（千葉大学）

- 9:00～9:20 大学の公共性に関する概念整理
—文献調査から—
○高木 航平（東京大学大学院）
- 9:20～9:40 日本におけるリカレント教育の可能性
—国内の先進事例に注目して—
○塚原 修一（関西国際大学）
濱名 篤（関西国際大学）
- 9:40～10:00 激動の高等教育（2）
—2020年代の展望—
○山本 眞一（筑波大学・広島大学・桜美林大学）
- 10:00～11:00 総括討論

学術・研究活動とキャリア

司会：小林信一（広島大学） 佐藤万知（京都大学）

- 9:00～9:20 日本での国際流動が中国人研究者キャリアに与える影響の実証的研究
○孟 碩洋（東京大学大学院）
- 9:20～9:40 実務家教員政策と見えざるキャリア
○二宮 祐（群馬大学）
- 9:40～10:00 明治期日本の大学における口述による学術普及をめぐる考察
—端緒としての慶應義塾の演説会とその後の展開—
○菅原 慶子（東京大学）
- 10:00～10:20 医者と研究
—医学雑誌における原著論文執筆者の属性分析—
○丸山 和昭（名古屋大学）
- 10:20～11:00 総括討論

大学の入口・出口と人材養成

司会：福留東土（東京大学） 濱中淳子（早稲田大学）

- 9:00～9:20 学士課程における早期卒業制度法制化の形成過程
○藤井 竜哉（東北大学大学院）
- 9:20～9:40 日本の国立大学における「多面的・総合的評価」に基づくAO入試に関する研究
—大学が求める資質・能力と評価方法に焦点を当てて—
○賈 立男（北海道大学）
- 9:40～10:00 中国における卓越研究拠点形成事業について
○胡 云潼（東京大学大学院）
- 10:00～10:20 フランスにおけるエリート養成機関
○白鳥 義彦（神戸大学）
- 10:20～11:00 総括討論

自由研究発表Ⅱ 5月30日（日） 11:15～13:15

コロナ禍と学生・教育現場

司会：夏目達也（名古屋大学） 望月由起（日本大学）

- 11:15～11:35 コロナ禍における大学の共通教育
—現場から見えるもの—
○清水 亮（神戸学院大学）
- 11:35～11:55 オンライン授業は学生の学習行動にどのようなインパクトを与えたか
○劉 文君（東洋大学）
- 11:55～12:15 新型コロナウイルス影響下の在日中国人留学生の勉学と生活
○王 傑（慶應義塾大学）
- 12:15～12:55 コロナ禍における大学生のグローバル・コンピテンスの習得状況
—日米台韓4か国調査から—
○山田 礼子（同志社大学） ○杉谷 祐美子（青山学院大学）
荒井 克弘（大学入試センター） 塚原 修一（関西国際大学）
小笠原 正明（北海道大学） 森 利枝（大学改革支援・学位授与機構）
木村 拓也（九州大学） 堺 完（大分大学）
山崎 慎一（桜美林大学） 山田 亜紀（非会員・玉川大学）
スティーブンソン ビリー（非会員・同志社大学） 楊 夷（非会員・中部大学）
- 12:55～13:15 総括討論

大学と関係団体

司会：稲永由紀（筑波大学） 猪股歳之（東北大学）

- 11:15～11:35 日本における設置者別大学団体の役割と課題
—調査研究機能に着目して—
○松本 圭将（京都大学大学院）
- 11:35～11:55 「大学教育後援会」が参加する大学評価の意義
—相互理解と互恵的協働の観点から—
○大川 一毅（岩手大学） 大野 賢一（鳥取大学）
 鳥田 敏行（茨城大学）
- 11:55～12:15 大学卒業生の母校支援に関する研究
—卒業生個人の語りに着目して—
○古畑 翼（筑波大学大学院）
- 12:15～12:35 戦後における県人寮の展開に関する研究
—「学生寮建設計画の援助について」に着目して—
○遠藤 健（早稲田大学）
- 12:35～13:15 総括討論

法人と財務

司会：濱名篤（関西国際大学） 吉田香奈（広島大学）

- 11:15～11:35 私立大学の定員割れはなぜ起こるのか
○松宮 慎治（神戸学院大学） 中尾 走（広島大学大学院）
 樊 怡舟（非会員・広島大学大学院） 村澤 昌崇（広島大学）
- 11:35～12:15 小規模私立大学の増加がもたらす地域経済の拡大効果の検証
○柳浦 猛（筑波大学） ○立石 慎治（筑波大学）
- 12:15～12:35 大学法人による収益事業の実態分析
○森 卓也（株式会社 三菱総合研究所）
- 12:35～12:55 学校法人会計基準改正後における私立大学の財務について
—キャッシュ・フロー会計に着目して—
○福山 敦（茨城キリスト教大学）
- 12:55～13:15 総括討論

研究者と学術知

司会：阿曾沼明裕（名古屋大学） 山内乾史（神戸大学）

- 11:15～11:35 大学における研究データの扱い
—研究データポリシーの分析を通じて—
○船守 美穂（国立情報学研究所）
- 11:35～11:55 職種別及び年齢階層別教員構成等の変数に基づく大学類型化の試み
○有澤 尚志（文部科学省）
- 11:55～12:45 知識基盤社会における大学教授職に関する研究
—知識をめぐる認識と専門的活動について—
○有本 章（兵庫大学） ○大膳 司（広島大学）
○黄 福涛（広島大学） ○Kim Yangson（広島大学）
藤村 正司（広島大学） 村澤 昌崇（広島大学）
浦田 広朗（桜美林大学） 天野 智水（琉球大学）
葛城 浩一（香川大学）
- 12:45～13:15 総括討論

組織編成と戦略

司会：吉田文（早稲田大学） 伊藤彰浩（名古屋大学）

- 11:15～11:35 戦後大学改革における組織編成プロセス
—一橋大学「上原構想」における単科大学からの学部設立—
○野村 由美（東京大学大学院）
- 11:35～11:55 家政学分野における大学院設置過程の検討
—奈良女子大学を中心に—
○中原 理沙（アイオワ大学大学院）
- 11:55～12:15 大学設置基準と大学図書館
○村上 孝弘（龍谷大学）
- 12:15～12:35 教養系学部の特徴
—包摂性・多様性・学際性・共通性—
○栗原 郁太（津田塾大学）
- 12:35～13:15 総括討論

Ⅲ-1部会

大学自治と理念

司会：荒井克弘（大学入試センター） 井上義和（帝京大学）

- 14:15~14:35 日本における大学経営イデオロギーとしての「リーダー主義」
○齋藤 崇徳（大学改革支援・学位授与機構）
- 14:35~14:55 同僚制の功罪
—意思決定への教員参加と学長リーダーシップの影響—
○天野 智水（琉球大学）
- 14:55~15:15 権力の集中とその空洞化が進む日本の行政機構と国立大学法人における学長の
リーダーシップの強化
—今日の国立大では大学の自治がなくなってしまったのか？—
○磯田 文雄（名古屋大学）
- 15:15~15:35 学問の自由と大学自治の憲法原理について
—教育公務員特例法は教授会の人事自主権を創設する法律だったか—
○羽田 貴史（東北大学）
- 15:35~16:15 総括討論

Ⅲ-2部会

コロナ禍と大学教育

司会：村澤昌崇（広島大学） 鳥居朋子（立命館大学）

- 14:15~15:05 コロナ禍後の大学教育
—教員調査から—
金子 元久（筑波大学） ○両角 亜希子（東京大学）
○王 帥（東京大学） ○濱中 義隆（国立教育政策研究所）
阿曾沼 明裕（名古屋大学） 小方 直幸（香川大学）
島 一則（東北大学） 谷村 英洋（帝京大学）
福留 東土（東京大学） 朴澤 泰男（国立教育政策研究所）
- 15:05~15:55 COVID-19によるアメリカの大学への影響
—大学の価値・経済・国際化・キャンパスライフ—
○福留 東土（東京大学） ○長沢 誠（埼玉大学）
○川村 真理（東京大学） ○佐々木 直子（電気通信大学）
○蝶 慎一（広島大学）
- 15:55~16:15 総括討論

卒業生と学習成果

司会：吉本圭一（九州大学） 藤埴智一（宮崎大学）

- 14:15～14:35 中国における独立学院の教育サービスへの投資価値とその規定要因
—学生の愛着度に基づく横断的・縦断的な視点から—
○潘 秋静（広島大学大学院）
- 14:35～14:55 日仏の文系大学女子学生と卒業社会人女性の意識調査から見える課題
—仕事と家庭について—
○小森 亜紀子（昭和女子大学）
- 14:55～15:15 卒業生の分析
—Alumni Researchの歴史—
○江原 昭博（関西学院大学）
- 15:15～15:35 文系学士課程教育における学習経験と学習成果の差異
—人文科学系・社会科学系全国卒業生調査結果の比較から—
○篠田 雅人（社会情報大学院大学）
- 15:35～15:55 短期大学生調査を用いた評価に資するベンチマーク指標の検討
—保育者養成課程を中心に—
○山崎 慎一（桜美林大学） 塚 完（大分大学）
宮里 翔大（桜美林大学） 黄 海玉（短期大学基準協会）
- 15:55～16:15 総括討論

大学生

司会：山田礼子（同志社大学） 中井俊樹（愛媛大学）

- 14:15～14:35 学生の自己肯定感を高める因子の探索
—学生へのインタビュー調査から—
○青木 佑輔（根津育英会武蔵学園）
- 14:35～14:55 学生参画型FDの成立と変容
—岡山大学の事例を中心に—
○中里 祐紀（東京大学大学院）
- 14:55～15:15 中国の大学におけるエンゲージドラーニングに関する研究
—「第二課堂」を中心に—
○李 敏（信州大学・東北大学）
- 15:15～15:55 奨学金が学生の学業・就労に与える影響
○西村 君平（東北大学） ○呉 書雅（福島大学）
- 15:55～16:15 総括討論

国立大学法人の戦略

司会：水田健輔（大学改革支援・学位授与機構） 浦田広朗（桜美林大学）

- 14:15～14:35 高等教育機関に対する業績に基づく資金配分の導入・発展要因に関する諸外国の研究動向
—政策過程に関する研究を中心に—
○辻 優太郎（東京大学大学院）
- 14:35～14:55 外部研究資金獲得をめぐる現状と課題
—地方国立A大学におけるケーススタディ—
○小竹 雅子（島根大学） Noothalapati Hemanth（非会員・島根大学）
- 14:55～15:15 産学連携を支える「学金連携」の機能と課題
—国立大学と連携金融機関への調査を通じて—
○上重 達夫（東京大学）
- 15:15～15:35 大学の全学的教育改革を志向する特定事業支援政策
—「地（知）の拠点大学」事業（COC/COC+）の効果と課題—
○出口 英樹（鹿児島大学）
- 15:35～16:15 総括討論

留学生とグローバル化

司会：米澤彰純（東北大学） 恒松直美（広島大学）

- 14:15～14:35 フランスのトランスナショナル高等教育戦略とベトナムにおける展開
○上別府 隆男（福山市立大学）
- 14:35～14:55 外国人留学生の地方就職の現状と課題
—地方国立X大学を事例に—
○田中 久美子（島根大学） 楊 小平（非会員・島根大学）
SIMPSON Katherine（非会員・島根大学）
- 14:55～15:15 留学生30万人計画達成の背景と要因に関する一考察
—留学生の入学経路と卒業後の進路を中心に—
○太田 浩（一橋大学） 二子石 優（非会員・一橋大学）
- 15:15～15:35 留学生30万人計画に見る高等教育の国際化と日本語教育のジレンマ
○佐藤 由利子（東京工業大学）
- 15:35～16:15 総括討論

URA政策を通じてみる大学の研究活動

<趣旨>

この課題研究に求められているのは、大学の研究活動、研究機能を論じることである。日本高等教育学会では、研究よりも教育の問題が主に論じられてきており、それは教育学出身者が多く、科学技術分野の研究者が少ないことによるのかもしれない。かつてこの学会が創設される以前は、大学や高等教育機関を論じる場で「研究」について議論されることは多かった。専門分野として確立していなかったためその境界の垣根も低く、参加者には科学者、科学史家なども少なくなかった。教育学者も科学社会学をベースに議論したり、社会工学も顕著な役割を果たした。しかし高等教育の大衆化で大学の教育機能が研究対象としてより大きくなり、大学改革の進展は教育系の研究者の比重を高めることになった。同時に学会という専門分野の制度化もまた排除の機能を有したことも否めない。いずれにしてもこの学会では「研究」は必ずしも十分には論じられていない。この課題研究で「研究」にかかわる問題を取り上げるのにはこうした背景がある。

研究活動を取り上げられる場合、巷では論文数や研究力の低下が指摘され、ランキングや業績評価などがしばしば取沙汰される。とくに、社会の側から日本の研究力や研究生産性を向上せねばならないという圧力から、研究の在り方を考え、例えば教員評価を厳しくし、研究活動を促す、というような方向での議論が多い。しかし、「研究」にはもっと違った論じられ方があるのではないか。

そこで、「研究」を巷で論じられている論じ方と異なる観点から考えるために、なおかつ本学会で論じる価値のあるテーマは何かと考えると、今年の課題研究では、直接に研究活動を担う教員ではなく、いわゆる「第三職」と呼ばれることのあるURA（リサーチ・アドミニストレーター）を取り上げることにする。URAは、例えば名古屋大学では、「大学等において、研究者とともに（専ら研究を行う職とは別の位置付けとして）研究活動の企画・マネジメント、研究成果の活用促進を行うことにより、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化等を支える業務に従事する人材」とされている。従来と少し違う角度から研究活動を見てみようというわけである。

実はこうした第三職の人びとは、もともと本学会に関わる可能性を秘めている。しかし残念ながら本学会は今のところこうした人々の活動の場としては必ずしも十分に機能していない。それゆえに、こうした人々に焦点を当て、そこから大学の「研究」を見る視点を共有することで、新たな会員を掘り起こし、学会の新たな活動を促すことを期待したい。

具体的には、研究力向上にURAはどのような役割を果たすことができるのか、大学としてURAをどのように位置づけるべきか、URAはどのようなキャリアパスをたどるべきか、URAは専門職として確立できるのか（仕事内容、身分、評価システム）、などの議論を通じてURA政策や研究力強化政策をどのように評価すべきかといった論点にまで及ぶ予定である。登壇者として、田野俊一教授（電気通信大学学長）、三宅雅人会員（奈良先端科学技術大学院大学研究推進機構准教授）、標葉靖子会員（実践女子大学人間社会学部准教授）に話題提供をお願いする。

田野教授は、学長として「大学の研究運営の立場」から、国立大学法人化以降に大学の研究力に生じた問題（マイクロマネジメントの弊害）を指摘し、その事例の一つとしてURA制度を取り上げ、日本の大学の特性に合った事務（運営）の専門家やそれを支える制度の構築の在り方を問う。次に三宅雅人会員は、「かつてのURAの立場」から、きわめて多様な役割を有するURAの業務分類・URAのシステム整備についての歴史的な流れから現在のURAを取り巻く環境の変化を紹介すると共に、そこに生じた問題点や今後の科学技術振興に向けたURAの役割を議論する。さらに標葉会員は、科学技術論研究者という「第三者的に見る立場」から、科学技術政策におけるURA等の「研究支援人材」の位置付けとその変遷を探ることで、いかに政策的な議論と現実とのずれがあったのかを指摘し、大学の研究活動/機能を支える「専門性」やそれを担う人材のキャリアパス

をめぐる課題について論じる。

以上の発表を踏まえて、研究活動におけるURAの役割、職種としての構造的な問題について、さらにはURA政策や研究力強化政策をどのように評価すべきか、といった問題へと議論を展開する予定である。

齋藤芳子会員（名古屋大学高等教育研究センター助教）がコメントを行い、司会は小林信一会員および阿曾沼明裕会員が担当する。なお、研究活動といえば文科系もあり、会員には文科系が多いが、先に述べたような問題意識から、あえて今回は伝統的な科学、技術、医系分野を念頭において議論を進める。

司会：小林信一（広島大学）・阿曾沼明裕（名古屋大学）

<話題提供>

1. 田野俊一（電気通信大学）
大学の主体性・自立性を低下させる施策とその事例としてのURA制度
2. 三宅雅人（奈良先端科学技術大学院大学）
科学技術振興に向けたURAの新たな役割—国内と海外での取り組みから見えるURAの未来—
3. 標葉靖子（実践女子大学）
科学技術政策における「研究支援人材」—その位置付けと変遷からみるキャリアパス問題—

<コメンテーター>

齋藤芳子（名古屋大学）

大学と国民国家

歴史・国際比較を通じた考察

<趣旨>

日本と世界の高等教育を巡る国際環境が近年大きく変化し、グローバル化、リージョナル化とそれへの対応を基軸とした議論よりもむしろ、ナショナリズムの新たな台頭と高等教育との関係が大きく問われるようになってきた。グローバル化の議論が1990年代初頭の冷戦終結後に新自由主義などの台頭を背景としながら現れた後、これに補完・対抗するものとして欧州や東南アジアで地域高等教育圏の枠組み作りが進んだ。しかし、BRICSやG20の台頭、さらには米中間競争などによる世界のパワーバランスの変化のなかで、このようなグローバル、リージョナルな枠組みのナイーブな追求に陰りが見え始め、そのなかで改めて大学が国民国家と対峙する枠組みを模索する状況が生じている。

特に最近では、日本やアジアが近代高等教育のモデルとしてきた欧州や北米において、単純なグローバルイズムやリージョナリズムとは一線を画すような、高等教育の公的な性格や価値を国・政府との関係で問い直す議論が広がっている。他方で、東アジア、東南アジアでの高等教育研究が盛んになる中で、アジア、あるいはそれぞれの国や行政地区の大学のあり方と、これに関わる大学と国民国家との関係のあり方をそれぞれの固有の視点で議論し、国際対話につなげようとする動きも広がってきている。

世俗と聖の権力の間隙で出現した中世大学にそのアイデンティティの起源を求める欧州とは異なり、日本や東アジアの大学・高等教育には、むしろ近代国家建設の中核的な位置づけが当初から与えられている。ただし、欧州・北米の近代高等教育とそれをとりまく国民国家、公共性、シティズンシップの考え方もまた多様である。さらに、たとえばフランスの近代高等教育モデルがソ連を経由して中国、あるいは直接的な植民地関係を通じてベトナムやカンボジアなどに影響を与えるなど、東アジアへの欧米近代大学・高等教育モデルの影響も多様な経路を経たものとなっている。そして、以上の文脈においては、国家が推進する知識基盤社会形成を政策的背景とすれば、大学のアイデンティティを国家から独立した学術共同体としてとらえようという考え方そのものが問い直されることもありうる。

世界的な共通課題であるCovid-19のパンダミックが大学に及ぼす影響がどのようなものになるか、現在進行形の動きをあえて記せば、国家が強力に介入する形で人の移動や行動の制限と、時間と空間に縛られないサイバー空間上のコミュニケーションとそのモニタリングの爆発的拡大が進むなか、大学と国民国家との関係は混乱を含みながら、学問の自由と大学の自治という、日本と世界の大学関係者が幅広く共有してきた価値付けに関わるようなクリティカルな変動に直面している。

本課題研究では、上記のような現代的な文脈を踏まえた上で、大学と国民国家の関係について歴史・国際比較を通じて考察したい。日本の高等教育研究が探求してきた自国の大学と国民国家の文脈、すなわち、翻訳を通じた、戦前は主にドイツを中心とした複数の欧米モデル、戦後は米国モデルの移植と戦前のモデルとの接合、そして1990年前後からの英国型のNew Public Managementの移植と、その一方での固有の経路依存、自治獲得・維持といった日本の「大学と国民国家」との関係の内的なダイナミズムを、フランスなどを含めたより幅広い、異なる経路と文脈を持ちながら現在、研究と実践の両面で大きく影響し合っている東アジアの複数の高等教育システムと国民国家群のダイナミズムのなかで位置づけ直す。このことを通じて、大学と国民国家についての日本の高等教育研究の蓄積と、国際的な議論との間の接合と、これを通じた新たな展開を、歴史・国際比較を通じた考察と対話によって生み出していきたい。

司会：米澤彰純（東北大学）・夏目達也（名古屋大学・名誉）

通訳：黄文哲（三重大学）

<報告者>

1. 大場淳（広島大学）
フランスにおける大学と政府：歴史的展開と現代的課題
2. 詹盛如 Sheng-Ju Chan（國立中正大學 National Chung Cheng University）
Hybrid Universities in East Asian countries
3. 福留東土（東京大学）
大学・国民国家・公共性—歴史と国際比較からみえるもの

<指定討論者>

吉田文（早稲田大学）